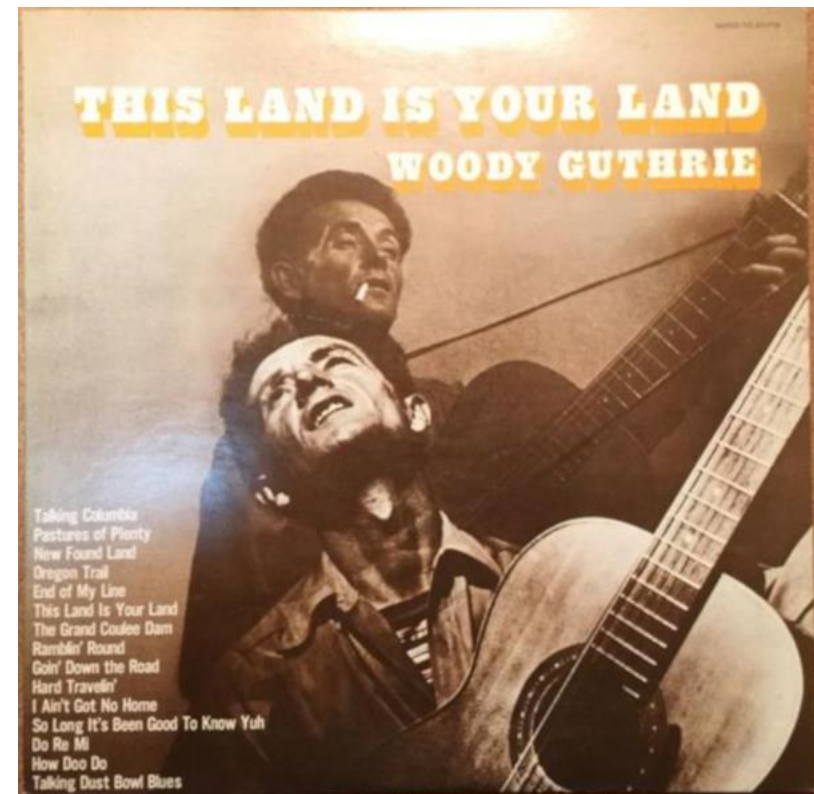
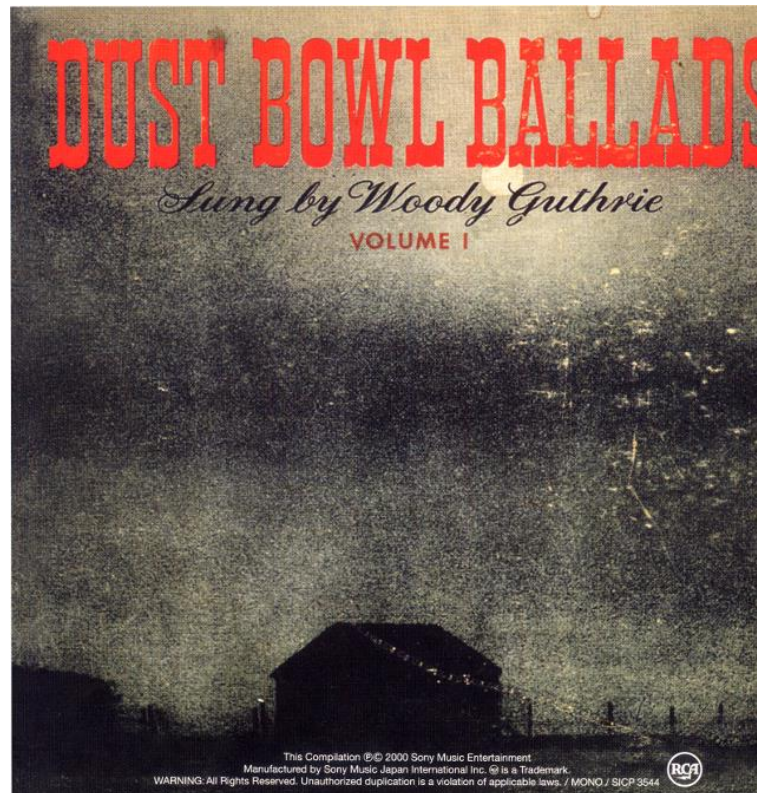


—印旛沼の今と未来—

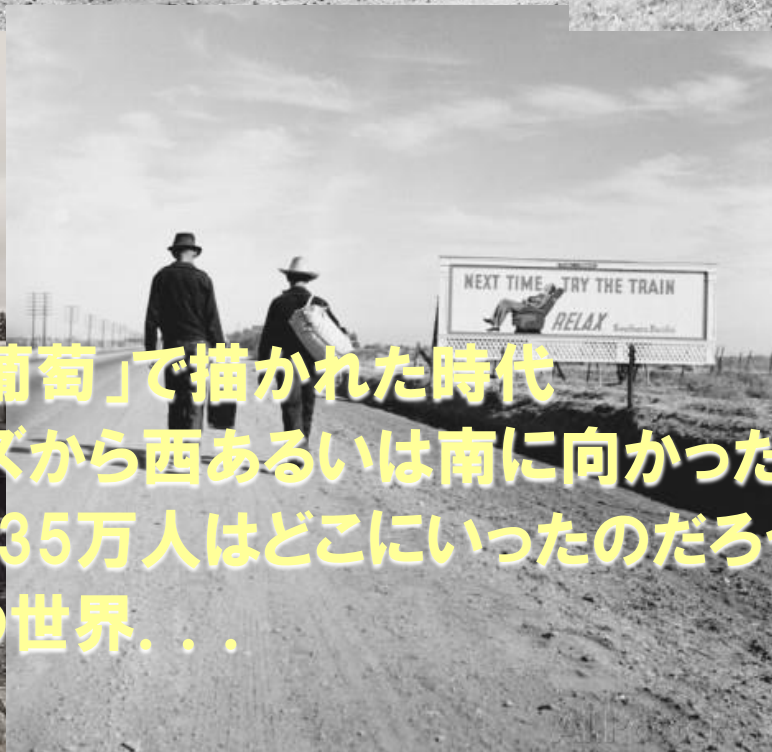
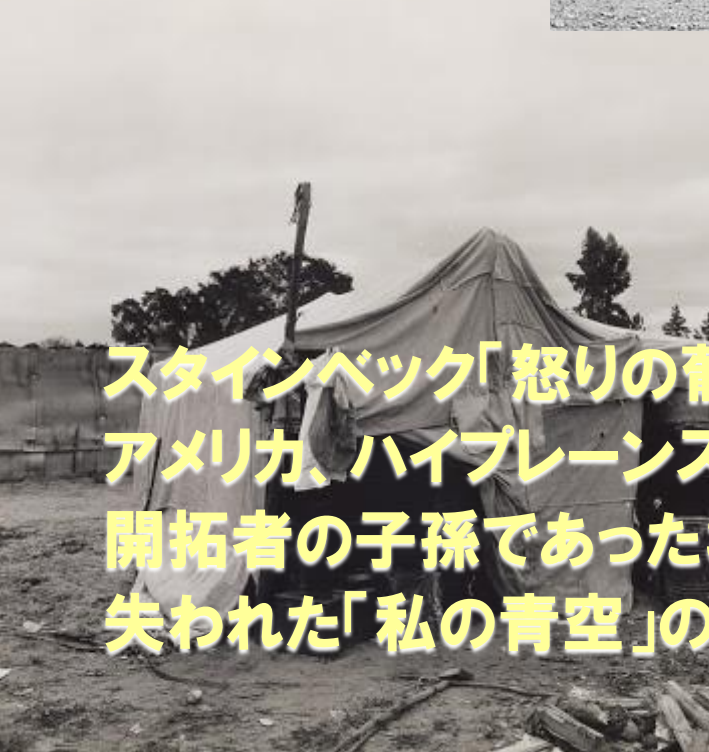
過去から至った印旛沼流域の今と 今とつながる未来



印旛沼流域のイメージ ダストボールの時代のアメリカ中西部
ウディ・ガスリー (1912～1967) オーキー、ホーボーを歌った曲

近藤昭彦 (下総台地人)

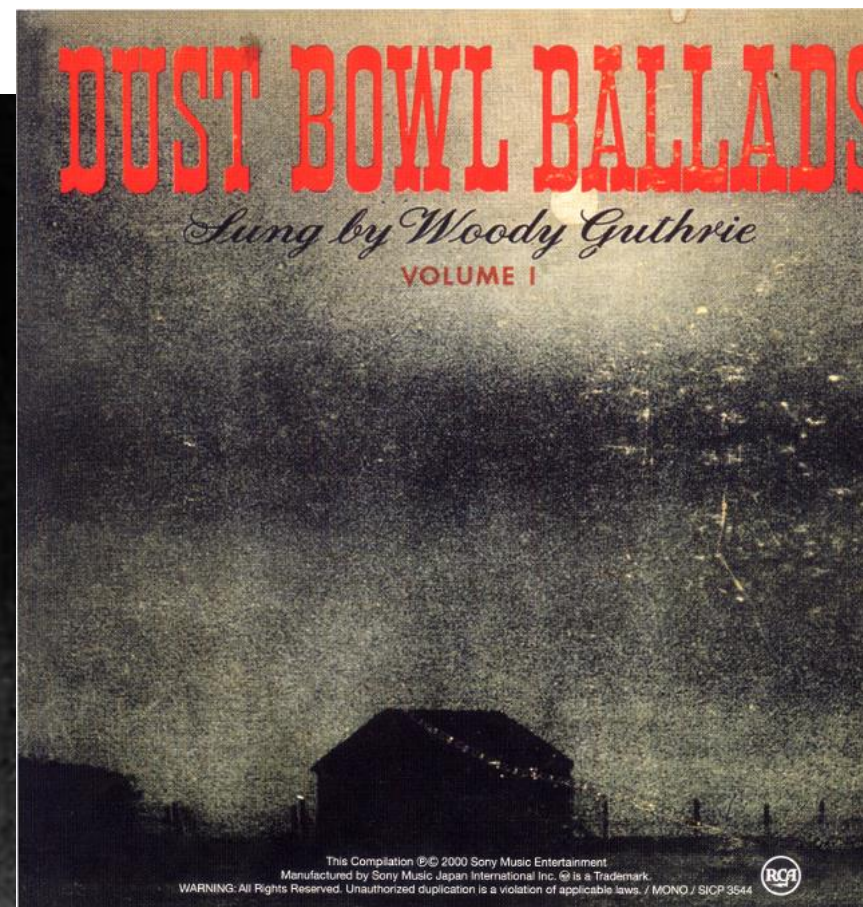
ドロシア・ラング 大恐慌時代の写真で知られるアメリカの写真家



スタインベック「怒りの葡萄」で描かれた時代
アメリカ、ハイブレイズから西あるいは南に向かった
開拓者の子孫であった35万人はどこにいったのだろうか
失われた「私の青空」の世界...

(写真集を2冊もっています)

昭和18年2月5日北海道日蝕 撮影内田豊



開拓者、ハードタイムの時代から
家族農業から大規模農業へ変わる時代

下総台地の歴史を理解するキーワード

開拓、ハードタイム、ダスト、...

東京新田から千葉県穀倉地帯へ

十余一、十余二、十余三、...



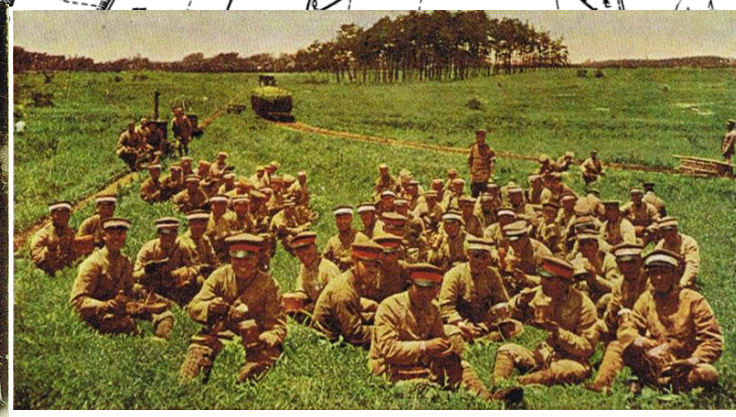
小金牧南端、習志野原に入植したばかりの近藤家(昭和22年8月)

今の近藤家は印旛沼流域の外側だが...

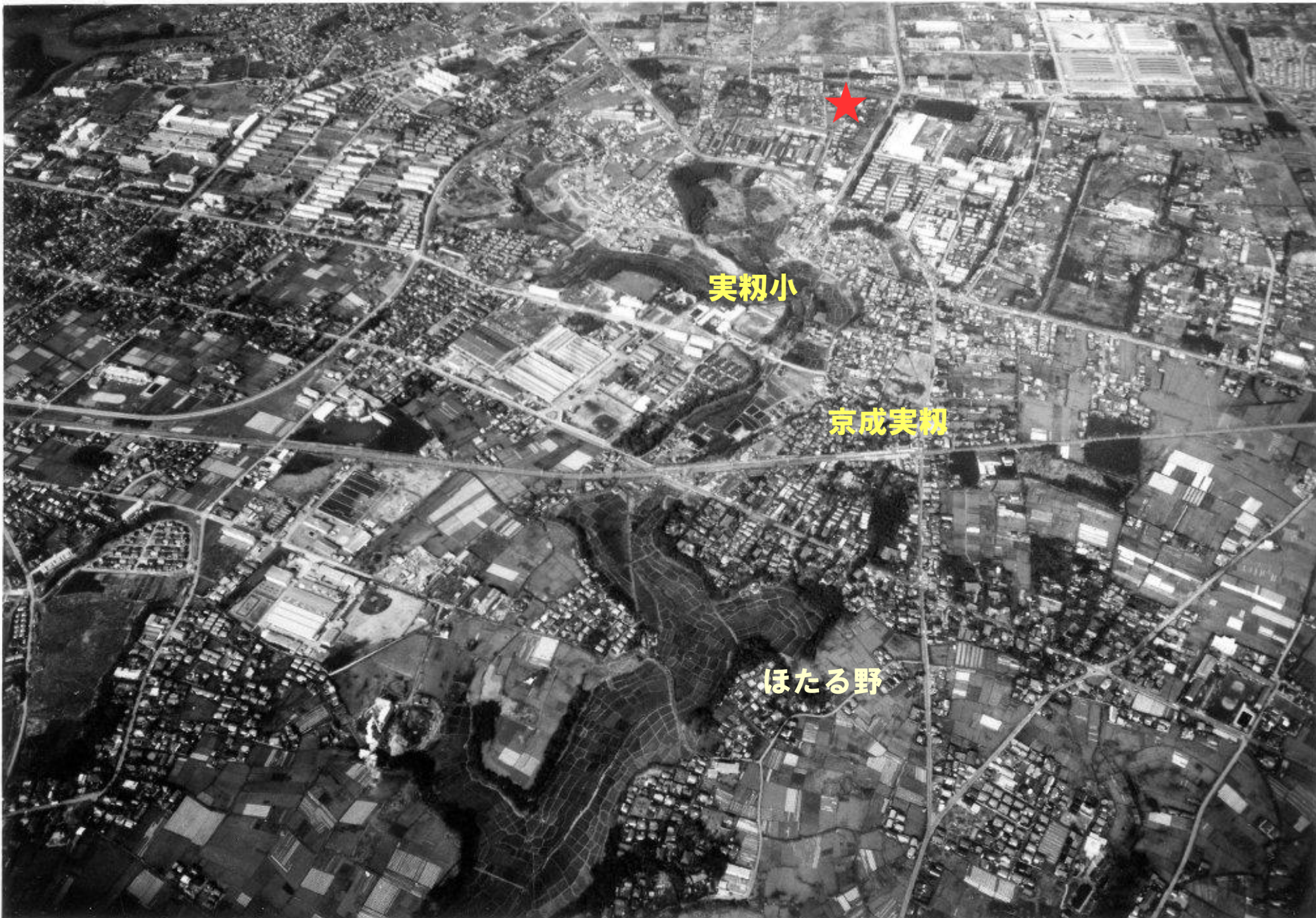


1万分の1地形図「大久保」
(大正6年)

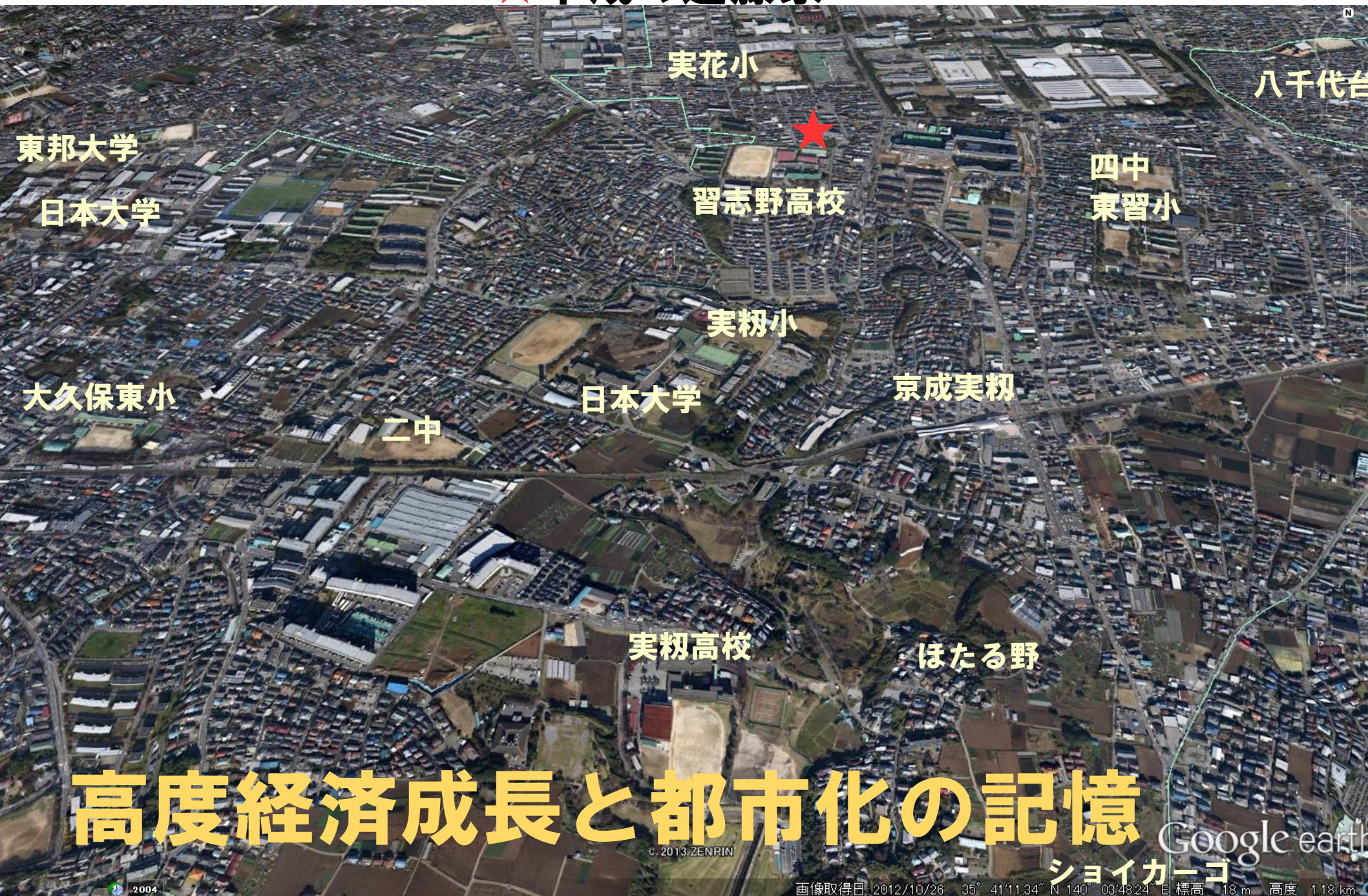
鉄道連隊
(WikiPedia)



1960年代後半と思われる斜め写真



★平成の近藤家

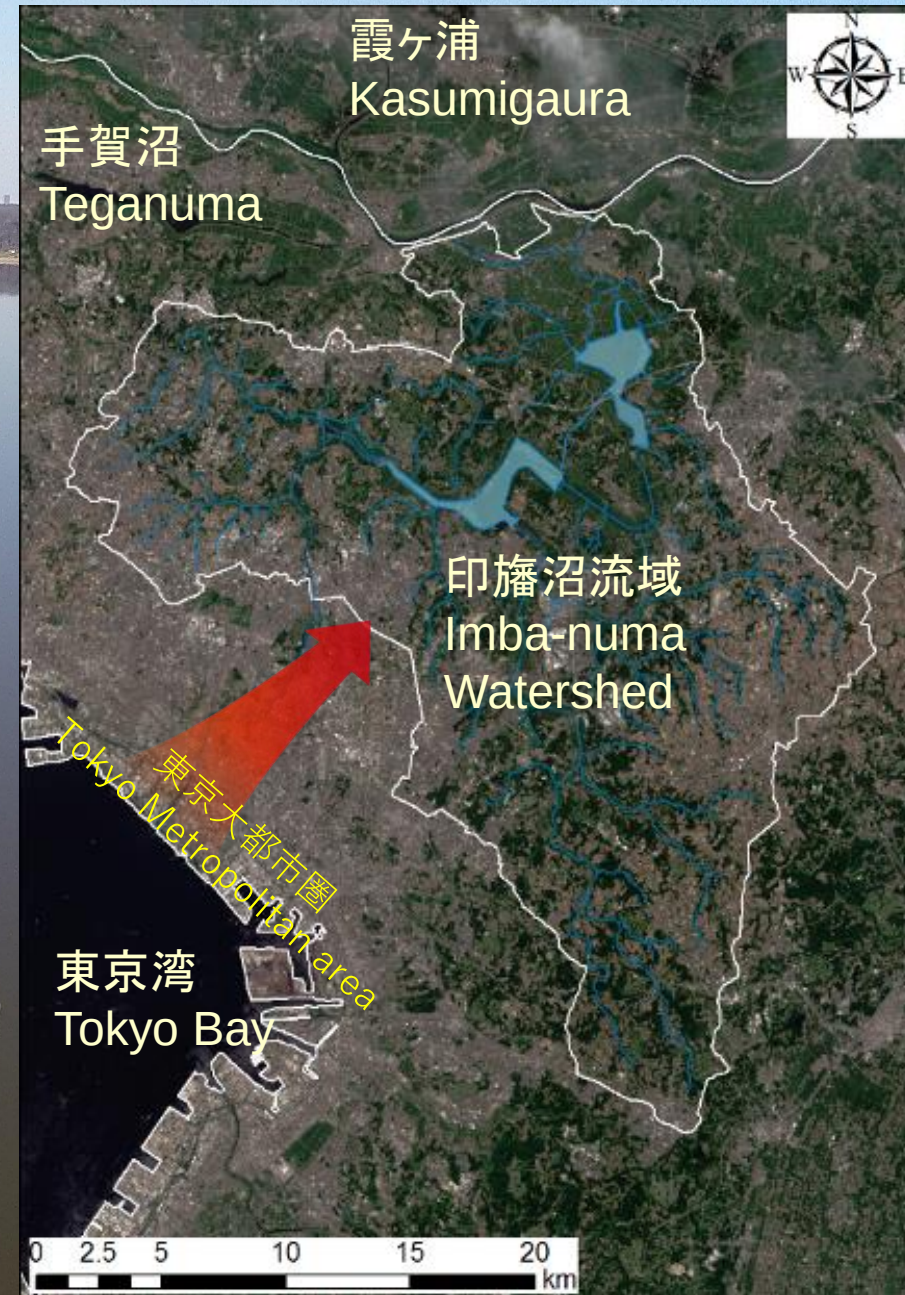


(c) Google 画像取得2012年10月26日

印旛沼流域の過去と現在

- ・沼の干拓とダム化
- ・東京大都市圏との結びつき
- ・人と沼の関係性の希薄化
- ・構造改革、新自由主義の時代
- ・競争の激化、格差の拡大
- ・新型コロナ禍
- ・SDGs、パリ協定
- ・次の時代、どうなる、どうする？

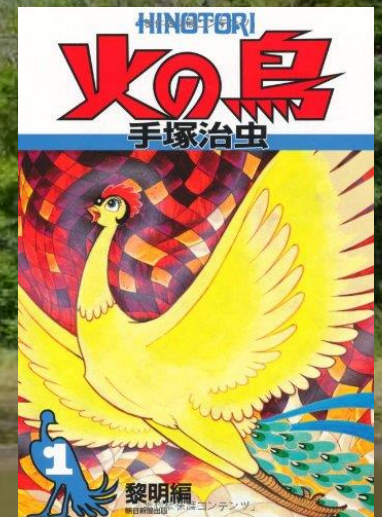
安全・安心の構築はだれの営み？



歴史を経て印旛沼流域の今がある

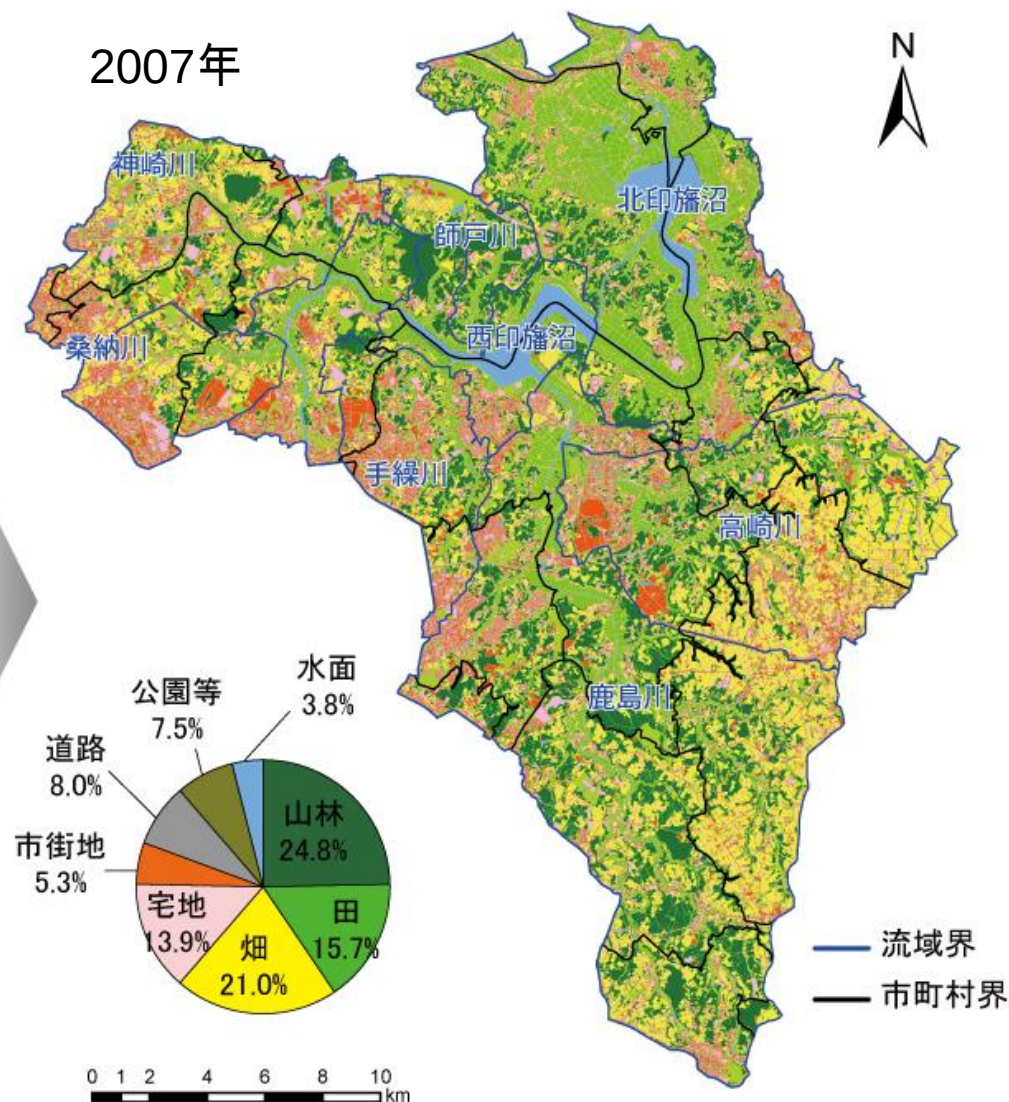
- ①都市化、スプロール化から縮退の時代へ
⇒どのように縮退させるか？土地利用の修正
- ②少子高齢化、子どもと現役世代の減少
⇒社会を変革しなきゃあかんのでは？
- ③新自由主義経済(構造改革)の限界
⇒幸せって何だっけ？
- ④新型コロナ禍
⇒社会の変革を促しているのか？

(美しい谷津・里山の景観だが、“楽”を得た代わりの分断も見える)



人と自然の関係性に問題 21世紀の課題「都市と農村の関係」

成長と老化の共存



(千葉県印旛沼流域水循環健全化会議)

安全・安心な街づくりとは：ある事例

- ・谷津の宅地開発
- ・高齢化が進み、空き家も増えた団地
- ・狩野川台風の記憶：都市型水害
- ・次のステージへどのように進むか
- ・世代スケールの時間をかけて人と自然の関係性を良くする
- ・流域治水への道程

2019年の水害



文違団地、Twitterより

谷底に開発
された団地

ここは“ふるさと”
でもあるのだ！

1:2,500

(八街市都市計画図)

桃園

0

50

100

200

300

400

500m

地域としての流域 上流と下流の関係



佐倉ふるさと広場から佐倉市街地方向を望む。右遠方は鹿島川の寺崎、亀崎地区の湛水。ふるさと広場で開催予定だった「印旛沼流域環境・体験フェア」は中止になった。（2019年10月26日）

- 守られていなかった時代の水害の記憶
- 守られている。誰によって、誰が、どこが？



排水ポンプを停めて、湛水させて印旛沼の水位上昇を抑制

②少子高齢化、子どもと現役世代の減少

	1950	1960	1970	1980	1990	2000	2010	2020
15歳未満	35	30	25	26	19	14	13	12
15～64歳	59	63	69	67	72	72	66	61
65歳以上	6	6	6	7	9	14	21	27

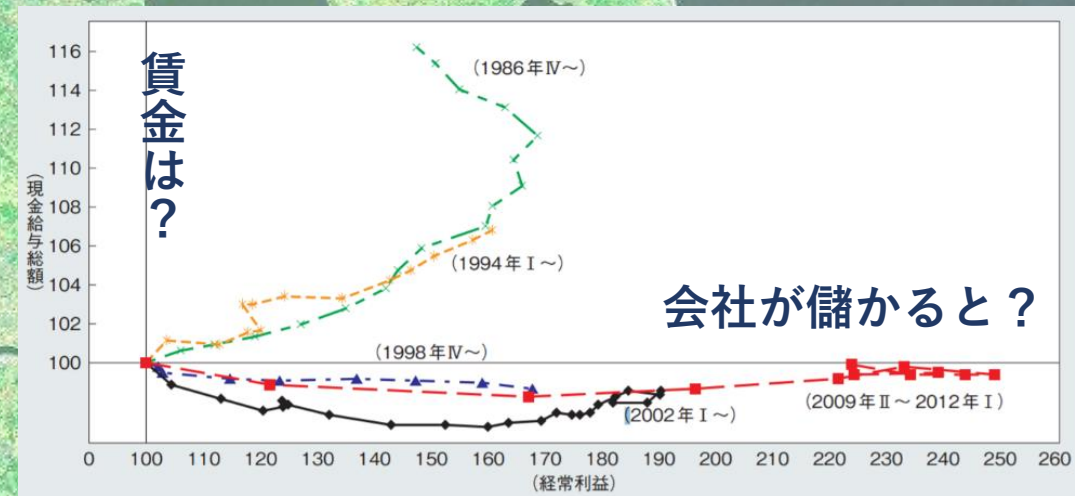
千葉県の子年齢別人口割合（千葉県総合企画部統計課）



**じいさんばあさんも活躍する時代
全世代が協働して“ふるさと”を！**

③新自由主義(構造改革政策)がもたらしたものの

- 競争が激化
- 賃金が上がらない
- 人が使い捨て
- . . .



景気回復局面における経常利益と
現金給与総額の関係
(平成24年版 労働経済白書)

幸せとは何だろうか
My blue heaven はどこにあるか

私たちはどんな未来を望んでいるのか



都市的世界と農村的世界の相利共生

第二期行動計画

「安全・安心に、楽しく、少し豊かに、 そして誇りをもって暮らせる社会」

(小田切徳美語録)

- ①自然の恵みを受けられなくなる社会をつくってはいけない
- ②農業をはじめとする一次産業が減ぶような社会をつくってはいけない
- ③手仕事の世界は残さなければならない
- ④暮らしをつくる労働を残す必要がある
- ⑤人間はつねに共同性の世界を必要とし、そうである以上、共同性の世界はつねに再創造されつづけなければならない
(内山節、「地域の作法から」、農文協人間選書255)

新型コロナ禍は”変革”を加速している？

●これから考えなければならないこと

○風土の理解と、そこで“暮らすこと”の諒解の形成

- ・ 長期的な土地の使い方の再考（流域治水、事前復興）
- ・ 環境学習、生涯学習、ESD（意識世界の拡充）

○ハザードをやり過ごすことができる社会の構築

- ・ 都市型社会と農村型社会の相利共生（地方創生）
- ・ 自然の恵みを活用する社会（EcoDRR/GI）
- ・ エネルギー、食、職の地域資源化（地域経済圏）

○文明社会のあり方

- ・ 人と自然の関係性の中の近代文明
- ・ どう生きたいのか

実は、現行の政策
の中にある。やる
べきことは実践！



（ウーキーペディア）

●とはいえ、カッコいいことばかり 言ってるわけにはいかない時代

- 安全・安心を外部委託している日本人の精神的習慣の再考
・少し厳しい時代になります。
- SDGs17 Partnership
・やはり協働。コミュニティーの力。
- しあわせ、豊かさの見直し
・必要を満たすことと、作られた需要を満たすことを区別。
- ふるさとと思える印旛沼流域
・ふるさととは遠くにありて想うもの、ではない。

その実現の方法はすでに底流としてある！

おしまい

印旛沼流域をふるさとに
印旛沼流域にアートを！